（臨床研究に関する公開情報）

江南厚生病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究にカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

血液透析・腹膜透析患者における食事摂取実態調査

[研究責任者]

中部大学生命健康科学部臨床工学科 教授　平松　武幸

[研究の概要]

末期腎不全の治療においては、食事療法、運動療法、薬物療法の他に、透析療法があります。ただし、治療のまず一歩は食事療法や、生活習慣の改善であると思われます。

血液透析療法を受けてみえる患者においては、透析療法がスムーズに行えるように水分摂取、カリウム、リン摂取の制限など必要とされています。一方、最近の透析患者では高齢化がすすんでいるために、サルコペニアやフレイルという併存症が多くみられます。サルコペニア・フレイルとは、筋肉量の減少などに伴い、筋力の低下、自宅に閉じこもり、寝たきりになってしまう状態です。この原因としては、透析患者の食事摂取量が少ないこと、運動不足などが原因と考えられております。タンパク質は筋肉生成のための材料でもあり、サルコペニアなどを防ぐにはタンパク質制限を緩めるような食事指導も行われるようになってきております。また野菜や果物をとることはビタミンや繊維質をより摂取することにもなり、好影響をもたらすこともあります。さらに最近のデータでは、野菜や果物をしっかりとった患者の方が長生きできるとのデータが多くあります。同様のことは腹膜透析患者でも言えます。今後の検討のため、血液透析･腹膜透析患者の栄養摂取の実態について調査を行います。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

血液透析を行っており、2016 年 1 月以降に栄養指導を実施した方。

●利用するカルテ情報

年齢、性別、栄養指導の目的・内容、血液検査上での栄養指標（血清アルブミン、ｎPCR、GNRIなど）　等

[個人情報の取扱い]

この研究では、お名前、住所など、患者さんの直接特定できる個人情報は使用しません。研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

共同研究者：江南厚生病院透析センター 透析センター長　小島　博

電話　0587-51-3333

研究責任者：中部大学生命健康科学部臨床工学科 教授　平松　武幸

電話　0568-51-9725(直通)